

沖縄でのかけがえのない4日間

川根高等学校 2年 山本 深月

私たち川根高校2年生は12月10日から13日までの4日間修学旅行で

沖縄へ行きました。この4日間で多くの観光地や戦争にまつわる地を巡り、様々な経験をしました。

中でも特に印象に残っているのは、2日目に

行つた水納島でのマリン体験です。船で島まで渡り、そこでドラゴンボートに乗ったり、ダイビングをしたり、島に着いてまず目に飛び込んできたのは、青い海と白い砂浜でした。バス移動などで海は何度か見ていましたが、実際に足を踏み入れるのは初めてになります。エメラルドグリーンとコバルトブルーの海に立つ白波の美しさを感じました。普段は山に囲まれて生活しているので、視界いっぱいに海が広がるというのは、とても新鮮でした。

説明を聞いた後は、さっそくウェットスーツに着替え体験に移ります。普段私たちは鼻で呼吸していますが、ダイビングをする時には口で呼吸をしなくてはなりません。また当然ながら水中では会話ができません。また当然ながら水中では会話ができるので、サインで意思を伝えることが重要になります。インストラクターの方からの指導を受けた後、ゆっくりと潜っていくとそこにはとても神秘的な光景がありました。どこまでも青く透き通った海があるのはもちろんのこと、熱帯魚やイソギンチャクが暮らす姿もありました。魚は手を伸ばせばすぐ届く場所を泳いでおり、ソーセージをちぎつて与えると、さらに寄ってきました。水族館でガラスを隔てて見ていた魚たちが、私の目の前で楽しげに泳いでいる姿を見ることができ、感動的でした。

今回、私は初めて沖縄の海を訪れましたが、自分で潜つてみると沖縄の海が本当に美しいことを体で感じることができました。普通はできないような貴重な体験をしたと思っています。この4日間で学ぶことがたくさんありました。

沖縄では見るもの感じるもの初めてのものが多く、時間があつとう間に過ぎ去つたようになります。日本的一部でありながらかつては独立国として独自の発展を遂げており、気候も本土とは異なるため、違った文化が形成されました。これがうかがえました。また、本土や中国の影響を受けて生まれたというチャンプルー文化も体験できたと思います。



▲山本深月さん

column

眼科患者さん無料送迎いたします。

ご近所から、当院まで送迎車にて無料送迎いたします。
ご予約は電話にてお願ひします。
(当院に初めて受診される方もご利用いただけます)

島田眼科クリニック

住所：島田市日之出町3-9

島田駅から徒歩1分

☎0547-37-0431

診療時間：午前9時～12時、午後2時～6時
(休診日：水曜日、日曜日、祝日)

「日本の名湯百選©」が文字通り 百選に（11カ所が追加決定）

温泉を活用した国民の健康増進に取り組むNPO法人「健康と温泉フォーラム」(東京)はこのほど、「日本の名湯百選」に11カ所を追加決定しました。

名湯百選は、同N P O 法人前身の「健康と温泉 F O R U M 実行委員会」と日本温泉療法医会が1989(平成元)年から4年間を掛けて選定。当時、選出されたのは89カ所で本町の寸又峡温泉も名を連ねていました。

11カ所の追加認定を受けた「名湯」			
福島県	いわき湯本温泉	石川県	山中温泉
福島県	土湯温泉	三重県	湯の山温泉
神奈川県	湯河原温泉	兵庫県	赤穂温泉
新潟県	村杉温泉	鳥取県	関金温泉
長野県	別所温泉	熊本県	菊池温泉
静岡県	熱川温泉		
静岡県で認定を受けている「名湯」			
寸又峡温泉		修善寺温泉	
伊豆長岡温泉		古奈温泉	
七瀧・大瀧温泉			

【詳しくは <http://www.onsen-forum.jp/> と検索してください】

組織の設立25周年を機に
11カ所の追加を決定し、熱
川(静岡県)や山中(石川県)
などを加え、文字通り「百
選」に至ったものです。

寸又峡美女づくりの湯観光事業協同組合の望月理事長は「偶然にも寸又峡温泉開湯50周年の記念すべき年に全国の名湯が百選出そろった。ほかの名湯とも連携しながら、寸又峡温泉のブランド力を高めていきたい」と話していました。



▲「日本の名湯百選○」
認定プレート



父：誠人・母：利枝
1歳を迎え、おしゃべりも食
欲もパワーアップしてきまし
たね。
毎日、一緒に過ごす時間がと
ても楽しいです。
これからも笑顔をたくさん見
せてね。



父：毅・母：麻理
♥さく1歳おめでとう♥
元気に育ってくれて嬉しい。
最近はボール遊びがスキで、
投げるのが上手になったね。
将来は野球選手かな(笑)☆
これからもいっぱい食べて、
いっぱい遊んで、たくましい
男の子になってね！

▼「先輩も若者も地域を変える」の取材を通じて(関連記事2~5ページ)
△甲賀さんが紹介したルイ・ヴィトンの哲学「伝統とは革新の連續である」の言葉。伝統を守り続けていくためには常に見直しを繰り返し、新しいものを生み出していくこと。それがブランドとしての魅力となり、お客さんがリピートするんだと。確かに魅力的な人や場所、食事にリピートしちゃいますよね。「あの人には会いに行こう」「あの場所に行こう」「あれ食べに行こう」とか。なるほどと、会場からも納得の印象深いエピソードでした。

△飯倉さんが話した「今出来ることは今やる」ということ。耳が痛いことですが、絶対必要なことですよね。

人生は一度きり。何ごともチャレンジし続けたいのですね。

編集後記

after word

